

## 大学院夏季入試説明会

### 日本語日本文学専門分野を受験する予定の皆さん

#### ○各専門分野の入試科目の説明

修士課程夏季入試について、第一次試験においては、入学志願書、提出された卒業論文またはそれに代わる論文（12,000字（400字詰め原稿用紙換算30枚）以上の論文。外国語で記されている場合は、日本語による全訳をつけること）および筆記試験によって判定します。筆記試験は、日本語に関わる問題（A）と日本文学に関わる問題（B）、および共通問題（C）、選択問題（D）から構成されています。国語学・国文学に関する全般的、基礎的な知識と思考能力、及び古典の読解力について試験します。国語（日本語）・国文（日本文学）いずれを専攻するにせよ、もう片方にも解答しなければなりませんし、それぞれの中でも幅広い学習をしてきたかどうか問われます。二次試験は面接によって、本学大学院生としての資質があるかどうかを審査します。

#### ○各専門分野のアドミッション・ポリシー

国語学（日本語学）は、日本語を一つの言語としてその構造や歴史を研究し、国文学（日本文学）は日本語あるいは日本で作られた文学を研究します。互いに別個の学問で、本専門分野の教員は、国語研究室・国文学研究室に所属が分かれ、大学院生もどちらかの研究室に所属することになります。しかし特に日本語の歴史的研究は重要な研究資料として文学研究と共通の素材を含んでおり、また、文学研究も、日本語で表された文章を対象とする以上、多くの局面で、日本語そのものについての洞察が必要になってきます。つまり国語学・国文学は、日本語あるいはそれによって表された文章を対象として、日本の文化を研究する共通性を持っています。互いに識見を持つことが不可欠なので、日本語日本文学専門分野という一つの単位を構成しています。

国語学（日本語学）は、日本語とはどのようなものであり、どのようにして現在のようなものになったか、あるいはわれわれの文化と言語はどのように関係しているか、などを問題として探求しています。

国文学（日本文学）は、日本語の文学、あるいは日本で作られた文学を対象として、その本質はいかなるところにあるか、いかなる歴史を構成しているか、これまでとは異なる読み方は出来ないかなどを考察しています。特に本専攻では第一次資料、原典に向き合って読み解く作業を重要と考えています。

以上のような問題意識を共有しながら、真摯に自分なりの考察を深め、博士課程に進学して次代の研究を担うこと、あるいは社会に出てその知見を役立てることに熱意を持つ学生を求めています。

## ○各専門分野の教員紹介

### 【国語研究室】

#### 井島正博教授

語用論を含む文法論を専門とする。古語の文法の他、現代語の文法や談話分析をめぐっては、欧米の言語理論をも視野に入れている。

#### 肥爪周二教授

文献資料を使用した日本語音韻史、悉曇学（仏教における伝統的インド語学）・漢字音韻学を中心とした日本韻学史の研究を行っている。

#### 小西いずみ准教授

日本語方言の研究。文法を中心とした各地方言の記述的研究、言語地理学的研究、および、それらのための基礎資料の整備・構築を行っている。

### 【国文学研究室】

#### 鉄野昌弘教授

上代文学。特に万葉集。日本語専用の文字が無く、漢字で日本語を記していた頃、具体的には奈良時代以前の文学を扱う。未開である一方、漢字によって東アジア全体が繋がっていたともいえる時代に、この列島の人々が何を作って行ったかを考えている。

#### 高木和子教授

中古文学。『源氏物語』を中心に、平安時代の物語や日記・和歌などの仮名文学を専門とする。

#### 木下華子准教授

中世文学。和歌・歌論・説話・記を中心に、韻文・散文という領域を超えて展開する多面的な言葉や作品のあり方を捉え、中世という時代の表現意識を解明することを目指している。

#### 佐藤至子准教授

近世文学。特に黄表紙・合巻など、絵入りの草双紙を専門にしている。江戸時代の文学・出版に対する統制の歴史も対象にする。

#### 安藤宏教授

近代文学。近代小説の表現機構を中心に研究している。

#### 渡部泰明教授

和歌文学。言葉一つ一つにこだわりながら、それが当時の人間観・世界観とどう結びついてあるかを考察している。

○修士修了者の就職状況の説明

博士課程進学その他、高等学校・中学校教員、新聞社、NHK、国会図書館、大学職員、鉄道会社、建設会社など、多様な分野に就職しています。

○修士論文に求める水準、内容などの説明

一つの主題に関して、多面的に考察し、これまでの研究史を踏まえた上で、新たな知見を導き出していることを求めます。